| 会　議　報　告　書 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 会　議　名 | 第１回草津市あんしんいきいきプラン委員会記録 | | | | | |
| 開催日時 | 平成３０年７月６日（金）１４：００～１６：３０ | | | | | |
| 開催場所 | 草津市シルバー人材センター　会議室 | | | | | |
| 委　　員 | 役　職 | 氏　　名 | 出欠 | 役　職 | 氏　　名 | 出欠 |
| | 委員長 | 佐藤 卓利 | 出席 | 委　員 | 毛利 由美子 | 出席 |
| | 副委員長 | 谷 勝久 | 出席 | 委　員 | 岡本 庄司 | 出席 |
| | 委　員 | 鈴木 孝世 | 出席 | 委　員 | 田渕 稔子 | 出席 |
| | 委　員 | 山本 博一 | 出席 | 委　員 | 中村 しづ子 | 出席 |
| | 委　員 | 井口 正子 | 欠席 | 委　員 | 斉藤 洋子 | 出席 |
| | 委　員 | 中島 大輔 | 出席 | 委　員 | 山本 進 | 欠席 |
| | 委　員 | 矢野 実千代 | 出席 | 委　員 | 荒森 紀子 | 出席 |
| | 委　員 | 治村 卓也 | 出席 | 委　員 | 中村 年夫 | 出席 |
| | 委　員 | 新村 真喜子 | 出席 | 委　員 | 奥村　弘 | 出席 |
| | 委　員 | 水永 美保子 | 出席 | 委　員 | 吉岡 孝治 | 出席 |
| 事　務　局 | 健康福祉部：西部長、増田副部長、居川副部長 | | | | | |
| | 長寿いきがい課：松永課長、西山課長補佐、橋本係長、村上副係長、岩瀬主査 | | | | | |
| | 介護保険課：久泉課長、小寺課長補佐、相井課長補佐 | | | | | |
| | 地域保健課：太田課長 | | | | | |
| 記録作成者 | 長寿いきがい課　村上 | | | | | |
| そ　の　他 | 傍聴者　０名 | | | | | |

## １．開会

【委員 20 名中、18 名の出席をいただき、事務局より開会を宣言】

## ２．挨拶

○居川健康福祉部副部長　皆様、こんにちは。第１回草津市あんしんいきいきプラン委員会の開催にあたりまして、一言、挨拶をさせていただきます。

日頃は、市の行政各般、とりわけ高齢者福祉の向上に格別の御支援、御協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

また、皆様方には何かと御多用の中、当委員会委員に御就任いただき、誠にありがとう

ございます。

さて、御承知のとおり、我が国は急速な高齢化に直面しており、本市におきましても、介護保険制度が開始されました平成１２（２０００）年には、１２％であった高齢化率が、平成２８（２０１６）年には２１％を超え、団塊の世代が７５歳以上となる平成３７（２０２５）年には、高齢化率は２２．６％に達するとともに、７５歳以上の高齢者が３万１千人を超えるものと予測しております。

こうした中、本市では、誰もが健幸になれるまちを目指した「健幸都市づくり」を進めるとともに、年齢や分野にかかわらず、すべての世代が共に支え合い、安心して暮らすことのできる「地域共生社会の実現」を目指しております。

当委員会で御審議いただき、今年度から平成３２年度までを計画期間とする「草津あんしんいきいきプラン第７期計画」におきましても、介護等の需要が急増する平成３７（２０２５）年を展望しながら、高齢者があらゆる世代とともに安心していきいき暮らせる社会の実現のために、また、誰もが住み慣れた地域で自らの有する能力を生かし、生きがいを持ちながら自立した生活を送ることができる仕組みづくり等を進めるために、「地域包括ケアシステムの深化・推進体制の構築」をはじめとする、６つの基本目標を掲げ、各種取組みを進めているところでございます。

本計画の基本理念である「すべての市民が人として尊重され、一人ひとりがいきいきと輝き、安心して暮らすことのできるまちづくり」の実現に向けては、行政だけでなく、市民の皆様をはじめ、関係団体など多くの方々と相互の連携が重要であり、委員の皆様からも広く御意見・御提言をいただきたいと考えております。

本日は、草津あんしんいきいきプラン第７期計画の概要について説明させていただき、高齢者福祉施設等および温浴施設のあり方について御審議いただきますが、忌憚のない御意見をいただきますようお願いを申し上げまして、誠に簡単ではございますが、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

## ３．委員・事務局自己紹介

【委員・事務局自己紹介】

## ４．議事

（１）草津市あんしんいきいきプラン委員会について

○事務局　【資料１－１、１－２、１－３に基づき説明】

（２）委員長・副委員長の選出について

【委員の互選により、佐藤委員を委員長に、谷委員を副委員長に選出】

（３）草津あんしんいきいきプラン第７期計画について

○事務局　【資料２、草津あんしんいきいきプラン第７期計画パンフレットの基づき説明】

○委員　草津あんしんいきいきプラン第７期計画パンフレットの２ページについて、中学校区別の人口や高齢化率が記載されているが、町内会単位で見ることができれば、より地域の特性が詳細に見られるのではないか。

○委員　委員はそれぞれ団体等の代表としてこの委員会に参画していることから、それぞれの団体等で話し合われている意見などを、この委員会で積極的に発言していければ良いかと思う。

○委員　市内１４小学校区で老人クラブ活動が展開されているが、草津市老人クラブ連合

会に加入しているのは７学区のみである。加入していない学区の意見としては、役員会などに出席することに煩わしさを感じるためだと聞いている。役員会では、各々の学区での活動内容等について意見交換がなされているが、加入していない学区の情報がないため、加入していない学区の意見を聞ける機会があれば良いと思う。

○委員長　草津あんしんいきいきプランでは、元気な高齢者がさらに元気に活躍いただけるような取組みも進めているため、老人クラブの皆さんからも元気になる秘訣を教えていただき、周知を図っていければ良いのではないかと考える。

○委員　現在、民生委員が地域で支援を必要とする方を地域包括支援センターへ相談した場合、その後の対応結果等について、地域包括支援センターから情報提供がある。一方、民生委員を介さずに家族等から直接相談が地域包括支援センターに入った場合は、民生委員には何ら情報提供等がなされない。

　地域ケアネットワークの構築を進めるためには、支援を必要とする方の情報を民生委員に情報共有できる仕組みが必要ではないか。

○事務局　個人情報の関係があり、一朝一夕では解決できない課題であるが、現在、地域ケア会議を開催している。これは、地域で見守り等が必要な方について、家族、近所の方、町内会の方、民生委員、地域包括支援センターや行政等が集まり、支援方法等について検討する会議であり、その中で情報共有を図っているところである。

○委員　この委員会で審議し、策定された計画内容について、町内会や個人レベルには情報が共有されていない。こうした会議に参画されない方にも広く情報共有がなされるような仕組みが必要だと考える。

○委員長　現在、小学校区ごとに「学区の医療福祉を考える会議」が開催されている。この会議には、学区社協、まち協、町内会長、民生委員や地域の各団体の代表の方が出席され、お互いの状況を知りながら、地域の医療や介護の実態やニーズを把握し、地域の中で課題を認識、解決していこうとする取組みを進めている。また、当該会議には、地域の医師や介護事業所の方なども参加されており、地域の課題に対して、専門家から意見をもらえる場にもなっており、地域の課題を専門家に提起していける双方向的な意見交換の場になることが期待される。

（４）高齢者福祉施設等及び温浴施設（ロクハ荘・なごみの郷）のあり方について

①高齢者福祉施設等（ロクハ荘・なごみの郷）について

○事務局　【資料３・案内パンフレットに基づき説明】

②なごみの郷見学

【なごみの郷　見学】

③高齢者福祉施設等及び温浴施設のあり方について

○事務局　【資料４－１、４－２に基づき説明】

○委員長　本日の議論のみで意見をまとめるのは難しいと思うが、今後の検討課題や施設を見学された率直な感想などをいただき、次回の委員会に向けて事務局で意見の整理をお願いしたい。

○委員　私の地域では、新しい市民センターの建設を予定しているが、本日の見学で、市民センターの建設に向け、施設機能を考える上で非常に参考になった。特にキッズルーム

については、子育て世代も利用をされることから、こうしたスペースがあることは良いと思った。

一方、和室については、施設側の説明ではあまり利用がされていないということであり、多世代交流を進めるというコンセプトは市民センターも同様であることから、活用の方法等について参考とさせていただきたい。

○委員　利用者の拡大を検討するにあたって、巡回バスの本数やノンステップバスになっているかなど、バスの状況について教えて欲しい。

○事務局　ロクハ荘もなごみの郷も巡回バスが運行している。本数については、各施設について５コース作っており、それぞれのコースを週２回運行できるよう設定している。

ノンステップバスかどうかについては、確認させていただきたい。

○委員　私は笠縫学区に住んでいるが、なごみの郷行きのバスは見たことはあるが、ロクハ荘行きのバスは見たことがない。ロクハ荘行きのバスも笠縫学区を運行しているのか。

○事務局　運行している。ただし、バス停については、指定管理者が地域の方が乗りやすい場所でいくつか設定しているため、委員のお住いの近くではないかもしれない。

○委員　ロクハ荘となごみの郷の１日の利用者数の状況と、両施設に来られる方の移動手段は何が多いのか教えて欲しい。また、ＡＥＤの設置状況と、医務室があったが看護師の配置状況について教えてほしい。

○事務局　１日の利用者数については、資料３に施設利用者数のグラフを載せている。両

館とも、おおむね３００日／年の開館を行っているため、単純計算では、ロクハ荘では１９５人／日程度、なごみの郷では３０３人／日程度となる。

次に、施設に来る場合の移動手段については、施設ごとにお客様アンケートを実施しており、このアンケートによると、自家用車で来られる方が圧倒的に多い結果となっている。

次に、ＡＥＤの設置状況については、両施設とも設置済みである。

最後に、看護師の配置状況については、現在、看護師の配置は行っておらず、お風呂で気分が悪くなられた場合等は、お風呂に緊急通報のボタンが設置されていることから、すぐに施設職員が駆け付けることができる体制となっており、状況によっては救急車を呼ぶこともある。

○委員　利用者が体調を悪くされるなど、救急搬送する必要がある場合は、本人の希望がなければ施設から最も近い病院へ搬送するなどのルールはあるのか。

○事務局　ルールを決めているわけではないが、直近の事例であれば、草津総合病院に搬送された方がおられた。

○委員　アンケート調査の結果から、この施設を利用される方は自家用車で来られ、お風呂に入浴され、食堂で食事され、少しくつろがれて帰宅する、という流れがイメージできる。先ほど、この施設を拝見させていただいた中でも、同様の印象をもった。

こうした中、温浴施設のそもそもの位置づけを考える必要があると考える。温浴施設がここにあることによって、本当に健康長寿に寄与しているのかどうかということである。年々、孤独死が増加しており、人生の最終段階において医療や介護が必要な場合に家族がいない場合は、友人が指示をするという時代になってきている。

こうした背景からも、両施設については、友人づくりを進める拠点として見直しを図る

べきだと考える。

　また、認知症について、２０４０年には４人に１人が認知症になると予測されており、運転免許証を返納せざるを得ない高齢者が増えてくる。先ほどの事務局からの説明では、自家用車で来る方が多い、とのことであったが、自家用車でしか来れない施設はあまり健康的ではないかと考える。

　アンケート結果からも利用目的としては「温浴施設の利用」が一番となっているが、次が「講座・イベントへの参加」となっていることが救いではないかと考える。今後は、友人づくりができるよう、「講座・イベント」に力を入れるべきであり、また、健康長寿に資する取組みを行っていくことが重要である。

○委員　看護師の立場からは、健康相談やフレイル予防の事業ができれば良いのではないかと感じた。

○委員　資料４の２ページ中段に「施設を何のために利用しますか」について、三番目に多い回答が「その他」となっている。「その他」の具体的な内容について教えてほしい。

○事務局　「食事」、「卓球」、「友人とのお喋り」、「同好会活動」、「孫と遊ぶ」、「会議」が「その他」の主な内容の多い順となっている。

○委員　両施設について、施設利用者数の目標数値はあるのか。目標数値を下回っているため、利用者数を増やしたいという考え方なのか。

○事務局　施設利用者数および温浴利用者数ともに目標数値の設定はしていない。しかし、６５歳以上の高齢者人口が増加しているにも関わらず、利用者数が減少していることにつ

いて、高齢者ニーズと施設で展開している事業が合致していないのではないか、との問題意識を持っている。

○委員　資料４の２ページについて、「施設を利用しない理由はなんですか」に対し、「興味がないから」が３５．４％となっている。「興味がないから」と回答された具体的な理由は把握しているか。また、高齢者が充実を望む内容については把握しているか。

○事務局　「施設を利用しない理由はなんですか」については、選択式の回答となっており、興味がないと回答された具体的な理由までは把握できていない。

次に、今後において、高齢者が充実を望まれる取組みについては、資料４の２ページに、「今後の「草津市立長寿の郷ロクハ荘」「草津市立なごみの郷」について今後、どういった取組みの充実が必要であるとお考えですか。」との問いに対する回答状況を挙げている。

○委員長　この回答も選択式か。

○事務局　はい。

○委員　「興味がないから」と回答された理由は、行っても面白くないということかと思う。利用する方が興味を持たれている取組みを進めていく必要がある。

また、温浴施設については、お風呂に入りゆっくりすることも良いが、温浴プールなど、歩けるような施設があれば、より健康づくりに取り組んでもらえるのではないかと思う。

○委員長　施設のハード面は立派である。考えなければいけないのは、その立派な施設の中でどのような取組みを展開していくかということである。高齢者の利用を中心としてい

る施設ではあるかと思うが、多世代交流をコンセプトとして掲げている中、市民全体で利用できる、より充実したあり方を検討する必要があり、当委員会としては、健康づくり等の取組みに対して意見をしていければ良いのではないかと考える。

今後の高齢者福祉施設等と温浴施設のあり方について、検討の流れを教えてほしい。

○事務局　高齢者福祉施設等と温浴施設のあり方については、本日いただいた意見と市議会からの意見を踏まえ、第２回草津市あんしんいきいきプラン委員会において、一定の方向性を示した資料を提出させていただきたいと考えている。

○委員　食堂のメニューについて、カロリーや塩分の表示がなかった。また、脂っこい料理や塩分が高いメニューが多いように感じた。メニューを変えることは予算的にも厳しいかもしれないが、カロリー表示などは指定管理者と協議し、改善できるところから進めていってはどうか。

○委員　施設見学の際、食堂に入っている業者の選定は入札ではないと伺った。現在入られている業者がカロリー表示等にすぐに対応できる業者かどうか分からないが、今後、入札制度を採用し、業者選定を行う際の条件に入れるなどの方法が考えられるのではないか。

○事務局　食堂については、指定管理者が再委託するという方式を採用している。また、現状として、入札を実施した場合であっても、応募がほとんどないであろうと聞いている。

このことから、ロクハ荘もなごみの郷も以前から食堂に入られている業者が変わっていないという状況にある。

○委員　現在の業者にカロリー計算などをお願いすることは可能か。

○事務局　計算自体は可能かと考える。

○委員長　草津市が目指している「健幸づくり」の観点からも検討をお願いしたい。

○委員　草津市民であるか、ないかによって施設の利用料が異っているが、利用者の居住地をどのようにして確認しているのか。

○事務局　利用料が発生する施設を利用される場合は、免許証などで住所の確認を行い、利用料をお支払いいただいている。

○委員　草津市では、市内在住の６５歳以上の方にシルバーホットカードを配布し、このカードの提示をもって、利用料を判断していると聞いたことがある。仮に、シルバーホットカードがない場合であっても、免許証などで居住地の確認ができれば割引ができるということの理解でよいか。

　また、シルバーホットカードが利用できる他の施設があれば教えてほしい。

○事務局　ロクハ荘もなごみの郷についても利用者の多くがシルバーホットカードを提示されるが、持っておられない方については、免許証や保険証などで確認を行っている。

　また、シルバーホットカードで利用できる他の施設については、市立施設としては、草津宿本陣、水生植物公園みずの森、市民交流プラザ（軽運動室）、ロクハ公園プールなど、県立施設としては、琵琶湖博物館などの料金が割引される。

○委員長　資料４の５ページに、課題解決に向けた取組みとして、「利用者の拡大」、「交流の幅が広がる」、「自らの健康づくりや介護予防が続けられる」、「高齢者の知識を活

かす」、「多世代の交流が生まれる」の５つのテーマが挙げられている。

　こうした視点でから、どうしたらより充実した取組みが進められるのか、といった議論が必要かと思う。

○委員　温浴施設の利用料金について、市として引き下げるなどの考えはあるのか。

○事務局　温浴施設の利用料金については、平成３０年４月に値上げの料金改定を行ったところである。これは公衆浴場法に基づき、滋賀県が定める一般公衆浴場の統制額が引き上げられたことに伴うものであり、本市の温浴施設についても滋賀県が定める単価と合わせる必要があったことから、引き上げを行ったものである。

○委員長　民間の温浴施設もある中、公的機関が温浴施設を設置している意味は、民間の施設ではできないことを提供しているということであり、そのことを丁寧に説明していく必要があると思う。また、施設の中に温浴施設があることで、他の取組みと連動してより質の高い効果が発揮されるといった組み立てが必要ではないかと考える。これには、現在、利用されている方の利用実態把握を踏まえ、課題整理をしていく必要がある。

○委員　温浴施設の利用料金を上げたということだが、収支の状況について教えてほしい。

○事務局　温浴施設の収支については、利用料金だけでは賄えていない状況であるが、収支だけに捉われることなく提供していることに、公共機関が温浴施設を提供している意味があると考えている。

○委員　現在、高齢者は元気な高齢者も多いため、元気な高齢者向けの取組みを進めてい

くことが良いのではないかと思う。健康器具などを設置し、この施設に来ればより元気になって帰れる、といった取組みを考える必要がある。

○委員長　温浴施設のみを切り離すのではなく、その他の取組みと温浴施設がより連動して効果がでるような取組みを進めていくことが課題であると考える。

**（５）その他（特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）の公募について**

○事務局　【資料５に基づき説明】

**（６）今後のスケジュールについて**

○事務局　今年度、あと２回の委員会の開催を予定しており、第２回委員会は、９月３日（月）１４時からの開催を予定している。

また、第３回委員会は、２月下旬を予定している。

**５．閉会**

以上